

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修部分 更新研修コース

冒頭に

今回国研修に参加させていただき、大変貴重な経験となりました。

ファシリテーターとして未熟ではありますが、志を同じくする仲間と学びあい成長しあっていくというミッションを各所で実感することができました。

このような機会をいただきありがとうございます。次につなげていきたいという気持ちを強く持つことができました。

1 国研修で伝達されたこと

① つながりを意識した研修となること

基礎研修→実践研修→更新研修との流れを念頭に置くこと

更新研修受講者は基礎研修を受けた人の OJT の役割を担うため、SV のロールプレイを体験することが大切である。ロールプレイについての資料はいろいろとあるので検索するとよい。

② 研修を企画する際のポイント

大きなねらいは「支援の質の向上」

そのためのアプローチとしては

- ・ 本人理解（事業所含む）
- ・ 見立てははずれてよい。見直しが大切である。
- ・ チームアプローチ
- ・ GSV：これを研修に盛り込むためにはファシリテーターの力量向上も必要。事例提供者がケースをよく熟知していることが望ましい。

③ 自立支援協議会とのつながりについて

- ・ 特に児発管（その中でも放課後等デイサービス）とのつながりの弱さは課題である。企画者がわかりやすくつながりやすくするための仕掛けがあるとよい。

2 意見交換で得た情報

・ 更新研修コースでの大きなテーマは「最新の福祉事情の伝達」と「自己研鑽・SV」である。だが、受講者は前者についてのニーズはあるが、後者のニーズはあまり高くないことが多い。「どうして更新研修に自己研鑽やSVが必要なのか？」となることが多い。

・ SV プログラムにまつわる情報として…

○収録として知識伝達した

○令和6年度から必須プログラムとなるので、少しずつ導入し始めている

・ 救済措置にまつわる情報として…

○更新研修では期間内の受講が必須であるが、コロナ感染のため不参加、zoomの扱いがうまくいかずに研修中に退出して戻れないケースなどもある。対策が必要である。他県受講可能という模索をしているところもあった。

・自立支援協議会との連携については、伝達講習でも挙がっていたが意見交換でも話題に挙がった。チラシを作成したり情報版を作成・活用したりしているところもあった。

・サビ管、児発管同士の交流が zoom により減少。「広く知り合う」のが基本であるが、グループワークで分野別にして同じ分野同士での接点を作ることや対面に移行していくことを検討しているところもあった。

### 3 伝達されたことを都研修と関連付けて考えたこと

・東京都は受講人数が他県よりも多いことが特徴である。つまり量的な確保が前提となる。その上で質の担保をどう確保するかが課題だと感じた。

・現在更新研修は配信＋演習という組み立てである。量的な担保と受講者（というよりもファシリテーターの方か？）の時間捻出を考慮するとこれが限界かとも思う。ファシリテーターが増えるともう少し余裕が出てくるだろう。

・分野別研修のように、都研修では量的にカバーしきれない部分を補う工夫が必要である。…そのためにはやはりそれらの研修会や勉強会を企画運営する役割が必要となる。

報告者：うめだ・あけぼの学園  
皆川直美